マタイ 7
応えるほどに
増す恵み
マタイ福音書４章12～25節
宣教の開始　弟子の召命
Shikaoichurch.com

アウトライン
0. イントロダクション
Ⅰ. 宣教の開始　12～17節
Ⅱ. 弟子の召命　18～25節
Ⅲ. まとめと適用
主に応えるほどに増す恵み
聖書引用　新改訳2017©2017 新日本聖書刊行会

# 0. イントロダクション

ガリラヤ湖

# メシアの誕生が明らかにしたこと　マタイ1〜2章

❶イエスが、メシアである

❷メシアは、真のイスラエルである

❸真のイスラエルであるメシアは、
すべての異邦人のメシアである

**イスラエルの歩みの到着点が、メシア**

# メシアの使命

■三位一体の神の顕現のうちに、主イエスはバプテスマされ、メシアとしての使命と一体化された。

■メシアの使命の二つの段階

❶真のイスラエルとして、**正しいこと（第一に律法）を完遂**

❷罪なき者として、イスラエルと異邦人の**罪を贖う**

■荒野の試練をクリア　➡メシアとして主への忠実さを証明。

**いよいよ、メシアとしての活動が開始!!**

# 福音書の最重要テーマ

■イスラエルのメシアは、誕生された

■メシアと出会い、メシアを信じなさい。

■メシアを信じたならば、従いなさい

**メシアの招きに最初に応答したのは？**

Ⅰ．宣教の開始　マタイ4章12～17節
ガリラヤ湖

# ガリラヤ湖　うんちく

■大きさ　…166㎢（琵琶湖の1/4、サロマ湖より大）
（死海と琵琶湖が同じくらい）
…周囲53km　南北21km　東西13km
最大深度43m

■標高　…ー213m（死海はー430m）
世界で2番目に低い湖
魚が捕れる湖では一番低い

# ガリラヤ湖をめぐる歴史

- 名称…「ガリラヤの海」と呼ばれたことも。
  ゲネサレト湖(ルカ5:1)　ティベリアス湖(ローマ)
  ヤム・キネレット(竪琴の湖・近代ヘブライ語)

- 交通…古来からの交通の要衝
  「マリス街道」

- 産業…漁業が盛ん。
  当時、加工した魚は特産品

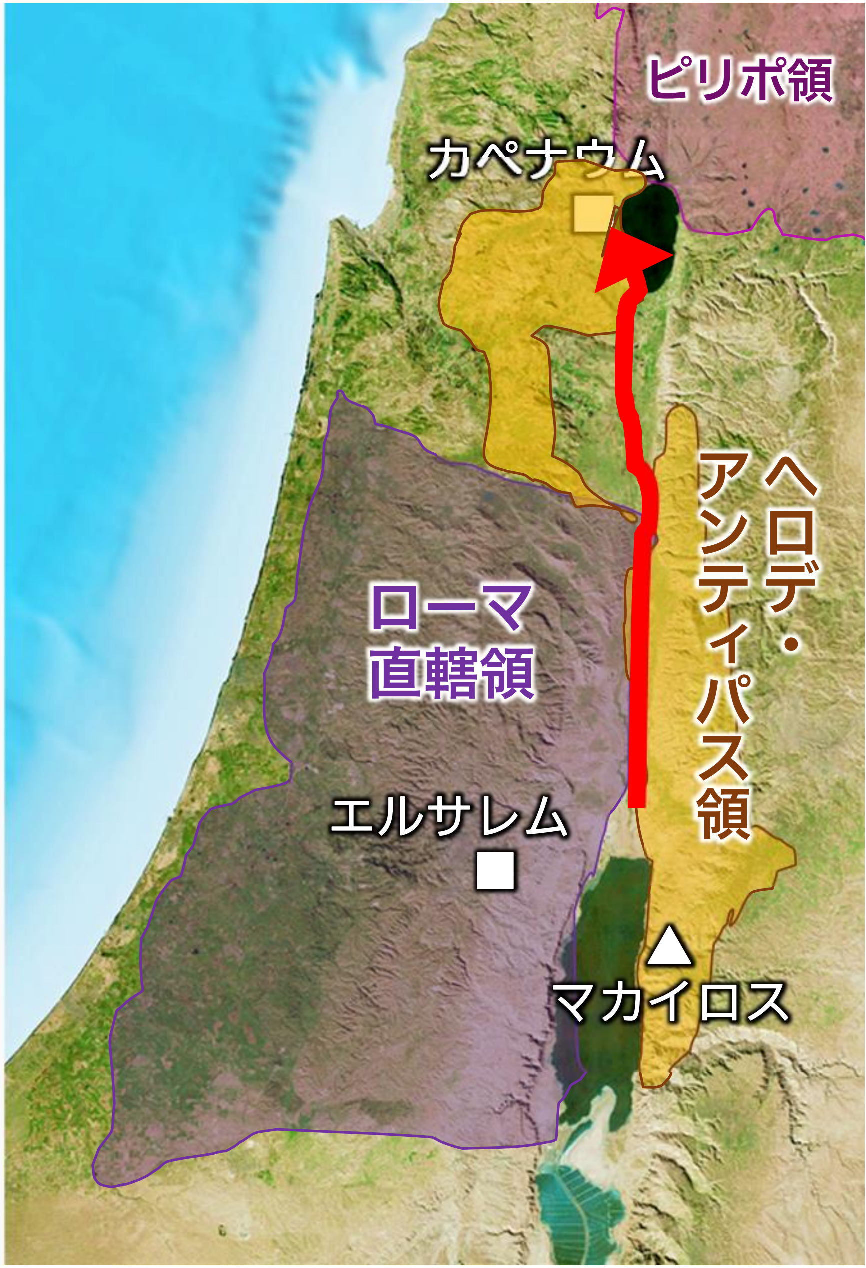
## 宣教　ガリラヤへ　マタイ4:12

イエスはヨハネが捕らえられた*と聞いて、ガリラヤ*に退かれた。

＊領主ヘロデ・アンティパスの手に
（弟の妻を妻に←ヨハネが断罪）
ヨハネの幽閉先が、マカイロス要塞

＊ヘロデの領内では、飛び地の最北
➡ヘロデの影響力も薄かった？

■ヨハネ、ペテロ…、ヨハネの弟子には、
ガリラヤ出身の支援者が多かった。



# 宣教　カペナウムへ　マタイ4:13～14

そしてナザレを離れ、ゼブルンとナフタリ*の地方にある、湖のほとりの町カペナウム*に来て住まわれた。これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。

＊ゼブルン族+ナフタリ族の相続地＝ガリラヤ

＊ガリラヤ湖畔の街。交通の要所。

➡イエスの宣教活動の拠点に!!

十二部族の相続地

**宣教**　**預言**　マタイ4:15～16

「ゼブルンの地とナフタリの地、海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦人のガリラヤ。

闇の中に住んでいた民は**大きな光**を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に**光**が昇る。」

**【イザヤ9:1～2からの引用・メシア預言】**

■アッシリアと北王国の驚異が南王国へ迫る中、イザヤがウジヤ王に告げた預言

➡アッシリア捕囚以降、異邦人に支配され続けたガリラヤに、**メシア**が現れる

# イザヤ書9:1～2 z

しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。
先にはゼブルンの地と　ナフタリの地は辱めを受けたが、
後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、
異邦の民のガリラヤは栄誉を受ける。
闇の中を歩んでいた民は
大きな光を見る。
死の陰の地に住んでいた者たちの上に
光が輝く。

# なぜ、新約聖書の旧約聖書からの引用に違いが？

## ❶預言は、メシアの影にすぎない

➡影は影。多少の違いは問題なし
影の細部にこだわると、かえって本質からずれる。

## ❷ヘブル語からギリシャ語への翻訳の問題

➡新約聖書の引用の多くは、七十人訳
七十人訳…ヘブル語旧約聖書のギリシャ語翻訳版

## 宣教　宣教の開始　マタイ4:17

この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい*。天の御国が近づいた*から」と言われた。

＊イエスをメシアとして受け入れる

＊メシア預言の中心は、
メシアによって建てられる神の王国

■この時点で、イスラエルが、イエスをメシアとして受け入れれば、イエスが王となって、神の王国が建てられた。

# 十字架以前の「神の国」

①永遠の王国　普遍的王国

②霊的な王国　（真の信者たち）

【地上での神の国】

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

⑤メシア的王国・千年王国

イスラエルが約束のメシアを
受け入れれば、神の国が、
実現されるはずだった。

# 十字架以降、明らかにされた「神の国」

Ⅱ．宣教の開始　　マタイ4章18～25節
ガリラヤ湖畔

## 召命　ペテロとアンデレ　マタイ4:18

イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペテロ*と呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師*であった。

＊ペテロ（ギリシャ語）　➡ケファ（ヘブル語）

“岩”…イエスがつけたあだ名（ヨハネ1:42）

＊カペナウムの漁師、網元。

## 召命　人間をとる漁師に　マタイ4:19～20

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」

彼らはすぐに*網を捨てて*イエスに従った。

＊エウテオス…13/36回は、マタイ福音書

＊アフィエミ…“放置する、置き去りにする、取り除く、赦す”

➡網を“捨て”て、人を“赦す”業に!!

## 召命　ヤコブとヨハネ　マタイ4:21

イエスはそこから進んで行き、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイと一緒に*舟の中で網を繕っているのを見ると、二人をお呼びになった。

＊ヤコブの父はまだ現役、ペテロとの違い
ヤコブとペテロは従兄弟

**召命**　**メシアの福音**　マタイ4:22～23

彼らはすぐに舟と父親を残してイエスに従った。

イエスはガリラヤ全域を巡って会堂で教え、御国の福音*を宣べ伝え、民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒やされた*。

＊メシアを受け入れれば、神の国が来る!!

＊この時点の癒やしは無条件、無差別。

➡王なるメシアの証明(しるし)

※無条件の癒やし　➡❶メシア宣教初期

➡❷使徒の宣教初期

# メシア預言　～メシアの癒やし～

【イザヤ書35:3～6】

弱った手を強め、よろめく膝をしっかりさせよ。
心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ。恐れるな。
見よ。あなたがたの神が、復讐が、神の報いがやって来る。
神は来て、あなたがたを救われる。」
そのとき、目の見えない者の目は開かれ、
耳の聞こえない者の耳は開けられる。
そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、
口のきけない者の舌は喜び歌う。
荒野に水が湧き出し、荒れ地に川が流れるからだ。

# 召命　メシアの証明　マタイ4:24

イエスの評判はシリア全域*に広まった。それで人々は様々な病や痛みに苦しむ人、悪霊につかれた人、てんかんの人、中風の人など病人たちをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らを癒やされた*。

＊シリアの領域(ガリラヤ含む？!)まで

➡シリアも約束された土地の一部

＊ここでも癒やしは無条件、無差別。

**召命**　**大勢の群衆**　マタイ4:25

こうして大勢の群衆が、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、およびヨルダンの川向こうから来て、イエスに従った。

# メシアの癒やしの変遷

❶一方的に、無条件、無差別に癒やされる
➡イスラエルに対するメシアの証明

❶恵み

❷応答が求められる
➡イスラエルの責務

❷応答

❸応答した者のみが癒やされる
➡真のイスラエルと認められる

❸報い

# すべての人に適用される救いの原則

❶すべての人に主の恵みは注がれている
➡救いのチャンスも必ず与えられる

❶恵み

❷福音への応答（信仰告白）が求められる
➡イスラエルの責務

❷応答

❸応答した者のみが救われる
➡永遠の神の民と認められる

❸報い

# Ⅲ. まとめと適用　主に応えるほどに増す恵み

# すでにパートタイムの弟子だった　ヨハネ1:35～51

■洗礼者ヨハネの弟子だった、ペテロ、ヨハネたち。
➡度々、荒野のヨハネに学びに行っていた

■「見よ、神の子羊」　この日からメシアの弟子に。
➡ヨハネ、ヤコブ、ペテロ、アンデレ、
バルトロマイ(ナタナエル)
➡皆、ガリラヤ(カペナウム)の出身。

■湖畔で師のイエスに召され、フルタイムの弟子に!!

**全的献身にいたった、ペテロやヨハネたち**

# 弟子たちによってかなり違った経済状況

■ヨハネ、ヤコブは、漁師の網元かつ、父が現役。
　➡大祭司の屋敷に入れるコネも　➡かなり裕福

■ペテロ、アンデレは、退職。父はすでに引退。
　➡雇いの漁師はいた？　➡いつでも復帰可

■徴税人のマタイ
　➡完全失職。復帰の可能性ゼロ

**メシアと12使徒の経済は、多くの支援の上に!!**

# メシアにフルタイムの弟子が必要だった意味

## ■差し迫った神の国

➡イスラエルがメシアを受け入れれば、神の国が!!

## ■迫っていた受難の時

➡御国の福音宣教のタイムリミット(3年半)の中での弟子たちの派遣による宣教

➡イエスに見えていた受難

## ■教会時代の準備

➡初代教会の指導者としての12使徒の訓練

**迫る時の中、すぐに働く、専従の弟子が必要だった!!**

# フルタイムか？　パートタイムか？

■教会時代の使徒たちの経済状況

…地域や時々の状況に合わせて臨機応変に変化

…基本、専任だった12使徒。時に自給伝道*のパウロ。

（＊コリントの自給伝道をマケドニアの教会が支援）

■12使徒もパウロも、全的献身した使徒に変わりない

➡教師を経済状況で区別する意味はない

教師の経済状況で地域教会を区別するのは非聖書的

**献身は、経済状況で決まることではない!!**

# すべてのクリスチャンに問われる献身

「あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。Ⅰペテロ2:5」

■福音を信じ、聖霊にバプテスマされ、完全に主の所有に。

■信じた瞬間から、献身の道は始まっている。
祭司として務めつつ、救いの完成に向かって歩んでいく。

# 様々な働きによって献身した人々

■一行に宿泊を提供したマルタ、マリア(ルカ10:38～)

■全財産の2レプタを、主に献げたやもめ(ルカ12:1～)

■人々に服を作っていたタビタ(使徒9:38～)

■使徒たちの働きを支えた商人リディア(使徒16:14～)

**キリストの一部として、必ず献身の場は与えられる!!**

# 礼拝者は、献身者

■ヨハネ福音書4:23

「しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって
父を礼拝する時が来ます。今がその時です。
父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として
求めておられるのです。
神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理に
よって礼拝しなければなりません。」

**犠牲を伴わない礼拝はない。献げるべきは、私自身**

# 信仰者の歩みの原則

■「一人の百歩より、百人の一歩」なんて言うけれど、

➡教会ではむしろ、「百人の一歩より、一人の百歩」
やりたくない人に合わせると、教会は沈滞する

■主への応答は、一人一人の自発性にかかっている。

■応答する人は、どこまでも応えて走って行けばいい。
「走り尽くした」と言い切った使徒パウロのように。

**主を見上げて走りつつ、隣を見れば共に走る誰かがいる**

# 走るべき道を走り通そう

■Ⅱテモテ4:7～8
私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、
信仰を守り通しました。
あとは、**義の栄冠**が私のために用意されているだけです。
その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

**主から義の栄冠を受けられるように**

# ★　献身は誰のもの？　★

- 福音を信じて主のものとされた。すでになされたことに応答していく、聖化の道は主への献身そのものだ。

- 召されているのは、私、あなた。どこかの誰かではない。内住の聖霊が示されている、次の一歩は何だろうか？

- まずは優先順位を明らかに、御言葉から始めよう。主が、私に、働き場も機会も、必ず与えてくださる。示されたなら、「すぐに」行動に起こそう。

**応えるほど、加速する歩みと、増し加わる恵みがある**

「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

永遠に主の所有とされた私の内に、御霊が住まわれています。

救いの確信を持って、福音宣教の使命に遣わしてください。

主が与えてくださった働きに、私はこの身を献げます。

主に従います。御国で、義の冠を受ける者として導いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」